第３回 新庄新高校（仮称）・新庄神室産業高校 教育基本計画策定委員会
記録（概要）

１　日　時　令和３年 11 月 26 日（金）10：30～12：15
２　会　場　県庁 1602 会議室
３　参加者　委員長（座長）、委員９名、事務局５名　※委員１名欠席

４　内　容

１　県教育委員会あいさつ
２　報告
（１）第２回教育基本計画策定委員会の記録（概要）について
（２）その他
３　協議
（１）新庄神室産業高校 教育基本計画（素案）について
①　基本理念
②　商業科設置予定年度と入学定員等
③　学科の目標及び教育課程
④　移行期の対応
⑤　施設整備計画
⑥　商業科設置に向けた準備組織及びスケジュール
（２）新庄新高校（仮称）教育基本計画（素案）について
①　基本理念
②　開校予定年度と入学定員等
③　教育課程
④　移行期の対応
⑤　施設整備計画
⑥　開校に向けた準備組織及びスケジュール
（３）その他
４　連絡
（１）次回の開催について
（２）その他

５　発言要旨

２　報告　　事務局長より説明
（１）第２回教育基本計画策定委員会の概要について
質問等なし。

３　協議　（１）新庄神室産業高校作業部会長　及び　事務局長
（２）新庄新高校作業部会長 及び　事務局長　より提案

（１）新庄神室産業高校　教育基本計画（素案）について
①　基本理念
質問意見等なし。原案の通り承認された。
②　商業科設置予定年度と入学定員等
質問意見等なし。原案の通り承認された。

③　学科の目標及び教育課程

（委員）

教育課程の特徴の１つとして９ページのウに外部の地域産業との連携の推進が挙げられており、非常に良い。ぜひ、最上内の企業等から外部講師を招聘する機会を多くつくってほしい。工業科の生徒は、工業団地にある企業へのインターンシップで、仕事の中身を知ったり、実際の仕事を経験することにより、就職につながってくると聞いている。農業科の生徒にも同じような取組み・指導ができるのではないか。

また、新たに開校する農業の専門職大学との連携との視点が必要ではないか。現在大学校は、小学校の授業において交流しているが、高校とは一歩進んだ連携を図り、お互いの学習環境を活かした新たな学びを作ってほしい。そのことは専門職大学の定員確保にもつながる。次に、「学習の個性化」とあるが、新庄神室産業高校は、学科・コース等の幅があるため、「指導の個別化」が大事だと思う。また、一人一台端末に対する小中学校の子どもたちや先生方の技能が追いついていない現状にあり、その課題を解決するためにも、小中学生に高校生が、タブレットを用いて勉強を教えるなどの交流があっても良いと考えている。高校の一人一台端末の整備状況について聞きたい。

（部会長）

一点目の専門職大学等との連携については、農林大学校、専門職大学や地域との連携を、体系化できないか議論しているところだ。今回いただいた意見を踏まえながら、専門職大学等との連携について盛り込むよう検討したい。二点目について、選択科目を取入れた教育課程を検討したり、一人一台端末を活用した学びを研究したりながら、生徒個々の学習の質を上げていく取組みを推進したい。三点目については、ホームルーム教室には大型提示装置が設置され、授業だけでなく、様々な側面で活用している。活用の質については、まだ手探り状況ではあるが、アイディアを出しながら活用の幅を広げ、質を高める研究を行っている。

（委員）

高校の一人一台端末の整備状況については、各教室に、大型提示装置と Wi-Fi 環境の整備が終了した。加えて、９月の補正予算で、県立高校の全日制と定時制の全生徒、およそ１万７千台分の整備を行うこととなり、年度中に整備を行い、来年度早々から使用開始できるように準備を進めている。日常的な授業や、探究的な学びの他、臨時休校などの緊急的な対応における活用を考えている。加えて、専門高校については、スマート専門高校という事業の中で、高性能・最先端の技術を駆使した機材の導入も進んでいる。他の高校も含めて質の高い学びを提供するための、一人一台端末の活用の仕方を考えていく。GIGA スクール構想の中で、一人一台端末を用いた学びが進められている小中学校と高校との連携、学びの在り方、社会とどのようにつなげていくかは課題と捉えている。

（委員）

「指導の個別化」は、十分な基礎力の定着を前提とした教育課程を考えるときに出てくる言葉であり、ゴールとなる指導目標を持ちながら、今までのように同じペースで同じように学ぶ形をとらないことである。生徒の学びやすい環境の中で、基礎的な力をつけようという捉え方である。また、「学習の個性化」は、問題発見力・探究力を個別に伸長していくことであり、ゴールの形はいろいろある。

商業科の新設で、農工商の連携による新たな教育活動として、どのようなことを想定しているのか。

（部会長）

現在も導入している総合選択制をバージョンアップでき、１年生に全学科共通で学ぶ科目の産業基礎での学びの幅が広がる。さらに、１年生の産業基礎から３年生の科目である課題研究まで系統的な探究学習の中で学科の枠を超えた班編成もできないか検討しているところだ。また、現在新庄南高校商業科では２・３年生がともに学ぶ総合実践という科目を設置しており、そのような異学年の生徒がともに学ぶ活動も検討している。

（委員）

技術系の公務員が不足しており、新庄神室産業高校では、特に建築・土木関係を目指す生徒を育ててほしいと考えており、これは企業からも要望されていることである。この視点を踏まえた教育課程を検討してほしい。

（部会長）

今年の公務員試験は２名合格した。放課後や土日の部活動後の時間を利用し、１年時から公務員試験対策を行うなどして受験者数の確保に努めている。一方、現実問題として、公務員試験は民間の試験と重なり、どちらかを選ばなくてはいけない中で、公務員試験は合格できなかった時のリスクが大きい。小中学校との連携を密にしながら、産業に対する意識を高め、高い興味・関心を持った生徒が入学し、好循環が生まれるような手立てを講じていく必要がある。

（委員長）

大きな反対意見はないので、提案を活かした形で進めさせていただきたい。なお、今後、文言の修正等がある場合には、次回の策定委員会に提案をお願いしたい。

④　移行期の対応、⑤　施設整備計画　及び

⑥　商業科設置に向けた準備組織及びスケジュール

質問意見等なし。原案の通り承認された。

（２）新庄新高校（仮称）教育基本計画（素案）について

①　基本理念

質問意見等なし。原案の通り承認された。

②　開校予定年度と入学定員等

（委員）

新庄新高校の校舎として、昭和４７年に建設された新庄北高校の校舎をそのまま活用するとしているが、どのような理由からか。

（事務局長）

「山形県立学校施設長寿命化計画」では、既存施設の目標使用年数を６５年から８０年を基準とするとしており、新庄北高校・新庄南高校の校舎ともに開校後１０余年でこの基準に達する。よって、その後の校舎整備の在り方については、老朽化の進行状況にもよるが、地域の声もお聞きしながら改めて検討することとする。

（委員長）

特に大きな反対意見はないようなので、開校予定年度と入学定員等については、原案の通りとする。

③　教育課程

（委員）

理数探究科と国際探究科の設置については、賛成である。新庄新高校に生徒を送り出す立場として、生徒の可能性を広げるためにも小中学校において、数学と英語の力をさらに身に付けることができる環境を整えていく必要があると強く感じた。

普通科の生徒を中心に、地域課題解決に特化した探究的な学びにも期待したい。新庄神室産業高校は、「ゆめりあ」での様々な取組みにより地域に貢献し、新庄北高校探究コースの生徒は、新庄小学校４年生との交流で、様々な学びを実践してくれた。新庄市は新庄開府 400 年に向け、様々な取組みを行っており、高校生が街づくりについて提案する場を設けている。

最後に、芸術的な感性は、創造性の育成には必要であり、特に演劇は新庄市において力を入れており、新庄中学校では、３年生全員による演劇の発表会を実施していた。新庄新高校の教育課程の中で、選択科目としての芸術科目なのか、それとも外部学習発表会などの教育活動を考えているのか、芸術性の感性を養う教育課程の具体的なイメージがあれば教えてほしい。

（部会長）

普通科、理数探究科、国際探究科の設置を前提としており、３学科は異なる教育課程の中で、音楽・美術・書道の芸術教育が先細りしないよう、これまでのような学習活動を担保したいと考えている。芸術教育の実現に当たっては、現在新庄南高校普通科と新庄北高校普通科一般コースに入学している生徒の層が集まると思われる新庄新高校普通科の生徒たちが主に担うことになる。演劇は、新庄市に歴史があることも承知しているが、演劇活動が直ちに全校生徒対象の教育課程に反映できるかということについては、今後の検討とする。例えば、新庄北高校の探究コースの生徒が新庄小学校に出向いて探究活動の一環として活動したが、これは探究コースの音楽選択者と美術選択者がセットになって訪問したものであり、今までにはない新たな教育活動である。音楽選択者と美術選択者が融合したことが大きな進歩でもあり、小学校に訪問して交流の中から自分たちの新しい学びにつなげることができ、大変意義深い活動であったと思っている。このような活動を、全ての学科の生徒に一律に提供することは難しいと考えている。同時に、探究科は地域課題解決の活動と、最先端技術や文化芸術などの知的欲求を満たす活動を検討する必要がある。生徒の興味・関心が、地域課題解決か、最先端の技術や歴史文化の知見に向かうのかによって変わってくる。理想は、両方の課題を探究することであるが、共通教科の活動とのバランスが難しい。そのような前提に立ちながら、普通科、理数探究科、国際探究科の３学科を設置する中で、指摘いただいたことを散りばめながら、学校設定教科・科目を教育課程に取り入れて、主体的にいろいろな地域の要望に応えていく選択を、生徒ができるようにすることを考えている。

（委員）

昼間定時制の教育内容や教育課程について理解が不十分な部分がある。次回の資料として、昼間定時制のある酒田西高校や庄内総合高校の教育課程、募集人数の推移などの資料を準備いただき、説明してほしい。中学校の先生方からは、昼間定時制についての質問が想定される。

（事務局長）

次回準備し、説明したい。

（委員）

平成３０年度に探究科・探究コースが導入され、山形県は、山形東高校をはじめ独特の探究活動の取組みを強めていると理解している。どうしても、大学の研究室との連携によるアカデミックな研究について、英文で発表することが素晴らしいような、つまり模擬大学生のようなイメージを、探究のイメージとして捉えているところが多い。しかし、山形東高校を見ていると、アカデミックな探究活動だけでなく、素朴な疑問に対する探究活動をしている生徒もいる。「なぜ３・４校時になると眠くなるのだろうか」をテーマに、真剣に生理学を含めてしっかり勉強している。もちろん、知的好奇心を広げる部分も必要だが、地に足をつけたテーマから探究を進めることはとても良い。リアルな探究には、地域探究も入るため、先行する取組みとして新庄新高校でも生かしてほしい。

また、オンラインと対面との融合が必要と考える。地理的な理由から、山形大学小白川キャンパスと村山地区の生徒は関わりやすいが、最上地区の生徒は関わりにくい。その対策として、ぜひオンラインで研究室とやり取りをしてほしい。大学側としても、山形探究オンラインプラットフォームのような形ができないか議論しており、深め合って進めていければと思う。

（委員）

最上地区の三つの公立高校が再編するにあたり、大きな期待感と自分の母校は統合してなくなるが協力したいという思いがあり、どんな学校になるのかという夢をはせている。加えて、新しい学校では、どんな学びができるのか、他の学校と何が違うのか、目玉やメリットは何になるのかなど、これからだとは思うが、もっと明確にしていく必要がある。

閉校が続く地域に、一つの学校を新たにつくることは、地域全体に大きな明るさをもたらすものだと実感したことがある。教育内容や地域の思いを引き継ぎながら、そんな明るい学校であってほしいと思う。

（委員長）

資料に関しては、特に大きな反対意見はないようなので、原案の通りとする。

④　移行期の対応、⑤　施設整備計画　及び

⑥　開校に向けた準備組織及びスケジュール

質問意見等なし。原案の通り承認された。

（委員長）

いただいた様々な御意見・ご質問は、次回の提案に反映させていただく。